

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870200035		
法人名	(株)かくだ		
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ グループホーム「あずさ」		
所在地	福井県敦賀市新松島町8番30号		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/18/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=1870200035-00&PrefCd=18&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中において、掃除、食器洗い・拭き・調理・シーツ交換・入浴準備など自宅で生活していたころの様に、自分たちで出来ることは積極的に活動してもらう事を意識し、生活リハビリを取り入れ、職員と明るくコミュニケーションをとりつつ、自分でできることを維持するようにしている。・近くに公園・スーパー・和食店・レストランなどが整備されていて、自然の環境に恵まれている。地域の祭、ふれあいサロンに参加し、また一方で社内行事に地域の方を招待し、出かける、受け入れる活動をしている。運営推進会議を活用し、情報の発信を行っている。地域住民の外出時には憩いの一時を持ってもらえるよう、日傘・玄関先にベンチ等も設置している。地域の方が古新聞などを持ってきてくれることもあり、地域の方々との交流にも積極的な活動を展開している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所では今年度陽に当たることや歩くことを大切に考え、毎日の散歩や職員の体制のある時には外に出るようにし、玄関先で外気浴やラジオ体操をしたり、ドライブや買い物、地域の行事等に出かける事で、日常生活においての活動的な暮らしや自立支援に繋がっています。職員間の関係は良々々な意見を出し合いながら日々支援し、利用者が重度化した場合にも本人や家族の意向を大切にされた看取りの支援の経験もあり、往診医や訪問看護師、職員とで話し合いを重ね方針を共有し連携良く支援に取り組んでいます。管理者は行事や会議の案内、議事録を家族や地域の方、行政等に直接届けることで事業所のことを伝え意見を聞く機会となり、理解を得ることができ事業所の行事や消防訓練、運営推進会議等の参加に繋がりが深まっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 敦賀ケアセンターかくだ グループホーム「あずさ」	・運営理念を社内に掲示するとともに、毎月実施するミーティングにおいて参加者全員で唱和し、理念の共有を図っている。利用者の自己決定に基づいたケアが出来る様、常に職員と話し合っている	家庭的な環境作りや利用者の尊重、自立支援、地域社会との連携等が謳われた法人の理念を基に、事業所としての目標を掲げています。理念をリビングに掲示しミーティングで唱和することで職員は意識し、日々の暮らしの中で利用者を尊重し選ぶ機会を作るなど、自立支援に向けて職員間で話し合いながら理念の実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ふれあいサロンや夏祭りなど、地域の行事には必ず参加するとともに、事業所主催の感謝の集い等に地域の方々も沢山参加してもらえよう、地域とのつながりを計っている。	自治会に加入し回覧板等で地域の行事や清掃などの情報を得て夏祭りや側溝の掃除などに参加し、日々の散歩時には近隣の方と挨拶を交わし気軽に声をかけてもらえる関係になっています。事業所で行う長寿の祝い等の行事には、地域の方へは1軒1軒声をかけて誘い多くの参加を得ています。事業所の夏祭りには高校生のボランティアが継続して来てくれたり、フラダンスなどのボランティアも受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議等において、委員等地域の方にも、認知症に関する研修を行うなど認知症に対する理解を深めてもらえるよう企画・実施を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で出た意見等は職員に周知し、発展的なケアに結び付けていけるよう努力している	会議は利用者や家族、区長、民生委員、福祉委員、市職員等の参加を得て隔月に開催し、写真を見てもらいながら事業所の様子を説明し、入退居や事故などの報告を行い意見交換をしています。認知症についてのDVDを見もらったり、食中毒についての質問等があれば答え事業所の理解を深めています。防災の情報をもらったり、職員の顔と名前がわからないとの意見からリビングに掲示する等、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員とも常時連携を計り、協力を得ながら、施設運営にあたっている。運営推進会議には市職員も参加していただいている	運営推進会議に市職員の参加を得ており、管理者は案内や議事録の提出、各種手続きの際に直接窓口に行っています。また、集団指導や他職種連携研修に出席し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「類天疱瘡」の利用者様がかゆみが強く、血が出るまでかきむしるため、家人の了解得て、一時的にミトンの着用を行った。利用者様を観察、声かけを行い、状況をよく把握し、その方にあつたケアを提供を行い、対応する事で「拘束無し」を行っている。	入居時に身体拘束を行わないことを明記した重要事項説明書にそって家族に説明し、職員は研修を受け言葉による行動の制止についても学び、利用者が自由に暮らせるような支援に取り組んでいます。玄関やエレベーターも施錠はせず、外に行きたい様子があれば一緒に出掛けるように支援しています。	

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やニュース等を通じて、何故虐待がいけないのか等を常に職員と話し合いながら、虐待が発生しない明るい施設を目指し、顔見知りの職員が交代しながらケアの提供に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護などを学び合い、利用者様一人一人の権利を守り、制度を活用出来る様家族との連携も図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学を本人・家族にしていたが、納得されたうえで契約してもらえるよう努力している。重要事項等の改定時の際は、家族会等を開催したり、個々に面談を行い、納得していただいたうえで実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々な機会をとらえ、家族と面談する中で聞き出した情報は、幹部会や運営推進会議等で提案し、改善を行っている。	家族会の開催や運営推進会議へ家族の参加の他、日々の面会時にコミュニケーションを図り意見や要望を聞いています。出席できなかった運営推進会議の議事録は遠方の方以外は直接訪問して手渡し伝えています。布団のクリーニングについての質問に答えたり、個々のケアについての意見をもらい自立支援に取り組むなど、言いやすい雰囲気や意見を言う機会を作りサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例幹部会の他、必要に応じ臨時幹部会が開催されている。職場の意見については、地域密着型統括責任者を通じ会社上層部に伝えるとともに、決定された内容については、職場の職員にフィードバックしている。	毎月行う職員会議ではヒヤリハット事例の検討やマニュアルの見直し等について話し合い、業務改善を行っています。管理者は日常的に職員の様子を観ながら意見や思いを聞くようにし、ハード面や物品の不備などは法人に伝え改善に繋がっています。新人職員にはミーティング前に幹部職員と面談を行ったり、定期的な個人面談も実施し個別に意見を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面接を行い、職員と職場について話し合い、やりがいのある職場を作るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の仕事や、業務手順等を見ながら研修内容や研修時期を決定している。		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に2回程度勉強会等の活動や、市内の職能団体との交流、県のグループホーム協議会等の活動を通じてサービスなどの質の向上に努める取り組みをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が困っている事や不安、要望等を聞きながら、家族様とよく相談し、また職員間で話し合い、本人・ご家族に安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前に、本人・家族との面談の時間を設け、本人・家族の困りごとを傾聴し、プラン作成の参考としている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の訴えをうのみにせず、本人の能力の見極めを行いながら、本人がまず必要としているサービスは何であるかを見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることは積極的に担当してもらい、押し付けたり管理することなく、その人のしたいことができることなど、一緒に生活を営むという姿勢を大切に日々の業務にあたっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取りながら、看護師・職員・医療機関等と連携し本人と家族を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活リズムを大切にするとともに、一緒に知人やなじみの場所、自宅の近所に出かける等、なじみの関係を断ち切ることがないように支援している	友人の来訪があった時には、寛いで過ごせる場所を選んでもらいリビングや居室に椅子などを準備しています。家族と友人宅へ出掛ける方が居たり、墓参りや自宅への外出等、家族とも協力しながら馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援しています。年賀状が届いた際には返事を利用者と一緒に入力し出すこともあります。	

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間に入りコミュニケーションを取るなど、利用者が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、連絡し様子を伺いながら相談事があれば対応するなどの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合いながら、体調に変化があった時はどうしたいかなどその時々状況に応じたケアが提供出来る様努力している。	入居時には生活歴や好きなこと等を直接聞き取り、以前利用していたサービス事業所からも情報を得て思いや意向の把握に繋げています。意思疎通が難しく思いの把握が困難な場合は、家族に聞いたり毎月行うミーティングで本人本位に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活に基づく暮らし方、今まで受けてきたサービス等を理解し、出来るだけ本人のペースを維持することが出来る様支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日少しずつ利用者の方の状態が変化する中で、出来る事、出来ない事の見極めに努め、自立した生活を続けることができるよう、支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や必要な関係者と話し合い、3か月毎に職員とカンファレンスを行い介護計画を見直している。	本人の思いや家族の意向、心身の状況のアセスメントを行い、家族も参加するサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月担当職員とケアマネジャーとがモニタリングを行い、3～6か月毎に介護計画の見直しをしています。見直しに当たっては往診時に医師に聞いたり訪問看護師に意見を求め、評価と再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開いています。	日々介護計画にそった実施状況の記載が少ないため、介護計画を意識した記録が増えモニタリングや見直しに活かされていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録にもれが無いよう、申し送りノートなど活用し切れ目が無く継続したケアができるようその人の状態や関わった事を話しあいながら全職員間で情報を共有している。		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じて柔軟な対応やサービスを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が出来ることを尊重しながら、地域の行事や近隣への買い物等の支援を継続し、その人らしい生活を続けることが出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医以外にも、家族が希望する医療機関への受診等も行い、安心できる生活を築くことが出来る様支援している。	入居時にかかりつけ医が継続できることを伝え、継続している方は家族と受診しています。医療と福祉の連携シートに受診状況が記載され情報の共有がなされています。協力医は月に1回の往診、訪問看護師は週に1回の訪問があり、診療や健康管理を受け、24時間電話やファックスで相談する事が出来対応してもらっています。法人内の歯科衛生士による口腔内のチェックを受け、必要に応じて訪問歯科による治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃から連絡を欠かさず、訪問看護ステーションと提携し、日常的な状態観察や、急変時にも速やかに対応出来る様定期的な訪問支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側に日常の暮らしぶりを伝えるとともに、2～3日毎に病室を訪問し、状態の変化を病院看護師に確認したり、本人と面談するなどの支援を行いながら、スムーズな退院を迎えることが出来る様、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な機会を捉え、本人の状態や家族のその都度の意向を確認しながら、穏やかな終末を迎えることが出来る様、事業所でできる限りの対応を心掛けている。	入居時に緊急時の対応や終末期についての事業所として対応できることを伝え、利用者や家族の意向を聞いています。利用者の状況の変化に合わせてその都度往診時に家族に立ち会ってもらい説明し意向を確認し、方針を共有しながら支援をしています。看取り支援の経験もあり、医師や看護師との連携良くアドバイスをもらいながらケアを行い、管理者や統括に相談できる体制を作り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練をおこなったり、AEDの講習会に参加するなど、緊急時にも落ち着いて利用者に関わる事が出来る様研修を繰り返し行っている。		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修に参加し情報収集を行い、定期的に避難訓練を行う他に、運営推進会議等でも協力要請の依頼を行うなど安全に避難出来る様対応している。	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下、夜間想定を基本に通報や水消火器による初期消火、避難誘導などの訓練を行っています。食料や水の他、ラジオやヘルメット、おむつ、拡声器、1週間分の薬などの準備もしています。運営推進会議で地域の方への協力を依頼したり、区长へ災害時の高齢者の一時避難場所として使ってもらえることを伝え、地域の災害訓練に利用者に参加することもあり協力関係を築けるよう取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命をお預かりしているという認識を強く持ち、また人生の先輩であるという尊厳の気持ちを常に持ち対応することが出来る様日常業務の中で指導、実践を行っている。	プライバシーや接遇マナー、倫理等の研修を受け、職員は利用者個々を尊重し大切にした対応に努めています。人生の先輩であることを念頭に置き、方言も使い利用者が理解しやすい言葉遣いで関わり、荒くならないよう職員間で注意し合っています。排泄や入浴時には同性介助や羞恥心に配慮し支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいのか何が出来るのか、本人の訴えや行動の中から、本人の要望をくみ取り、寄り添い、本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さぬよう、本人のペースに合わせ、本人らしく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた対応をしている。ヘアーカット等は月に1回程度行っている。起床時に化粧の習慣がある利用者様にはセティングし、化粧してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストを聞き取ったメニューにしたり外食したり、一緒に買い物に出かけたりしながら、一人一人が食事時間を楽しみにすることが出来る様支援している	新鮮な魚を中心にした昼食が法人から届き温めて提供し、朝食と夕食は職員が利用者の希望を聞きながら献立を考え、買い物から調理、片付けまで個々のできる事に携わってもらい食事を作っています。日常的にお好み焼きや流しそうめんなどをし、職員も一緒に食卓を囲み食事をしています。また月に一度はレストランや喫茶店等へ外食に行ったり、誕生日には希望により寿司の出前をとり楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を個人ファイルに記録し、状態確認を行っている。必要に応じてゼリーやとろみなど個別に対応する等の支援もしている		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には必ず職員が付いて歯磨きしている。定期的に歯科衛生士の指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努めるとともに、定時、随時のトイレ誘導を行い、気持ちよく過ごすことが出来る様配慮している	個々の排泄記録からパターンを把握し、仕草も見ながらタイミングを図り日中はトイレに行けるように支援しています。自立支援を基本に利用者の心身の状況からできることを把握し支援に繋げており、退院後の利用者も意思表示や筋力の回復と共に、申し送り等で情報交換を行い支援の方法や排泄用品の検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気の良い日は、散歩に出かける。天気の悪い日は体操や館内を職員と一緒に歩く等、体を動かす機会を積極的に設けるとともに、便秘予防が出来る献立を考え提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているものの入浴順や時間は一人一人の希望で選ぶことが出来る様支援している	週に3回曜日を決めて午前中を基本として入浴支援をしていますが、入浴できなかった時や拒否があった場合等には時間帯や日を変えることもあります。好みのシャンプーや石鹸を持って来ている方がいたり、入浴剤や柚子湯などの季節湯も取り入れながら入浴を楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の気持ちに応じて自室に戻ったり、ホールに出てきたり等、自由な時間を過ごすことが出来る様個別に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携や、訪問看護師の助言を参考にしながら、薬の効能や副作用についても勉強する時間を設け、各利用者の状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、気候を意識し本人の好みや楽しみごとを把握し、色々な機会の中で、楽しみを見つけることが出来る様日々のレクリエーション等に取り組み気分転換を図っている		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は随時行っており、町内の行事ごとにも積極的に参加させていただいている。他にも月に1度家族と一緒に出かけられるよう連絡を取り合っている。	歩くことや陽に当たることを大切に考えており、毎日の散歩や職員の体制のある時には外に出るようにしています。玄関先で外気浴やラジオ体操をしたり、希望にそってドライブや買い物に出かけています。また初詣や花見、地域の祭りなどの季節ごとの外出や法人内の事業所と合同で外出行事を行う等、外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じ、買い物に行った時には本人にお金を持たせ支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族に電話が掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて冷暖房を使用するが、外気を取り込み自然な太陽からの採光を心掛けている。共用空間については、季節を感じられるような飾り付けを行い、転倒を予防しながら、みんなが居心地のよい空間になるよう努めている。	共有空間には家庭的な家具を置いたり、台所やエレベーター前に椅子を設置し寛ぐことができる量のスペースがあり好きな場所を選び落ち着いて過ごせる空間作りをしています。生花や利用者と一緒に作った壁絵などで季節を感じ、時計やカレンダーがよく見えるように配慮しています。利用者もモップ掛けや塵取りを持ってもらい一緒に掃除をしたり、換気や温湿度管理も行い快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が思い思いの椅子に座り、畳の間で足を伸ばしたり、自由に昼寝が出来る等の支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人や家族と相談しながら本人がゆったりと過ごす時間を持つことが出来る様、家具等の配置を行っている。自宅にあるなじみの家具等も運び入れてもらっている	入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、使い慣れた筆筒や椅子、テーブル、鏡台、テレビなどを持って来られ、家族と過ごしやすいように配置しています。枕やタオルケットなど使っていた物を身近に置いたり、家族の写真や趣味であった俳句やちぎり絵を飾り、自身の居室であることが分かり居心地の良い空間作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるよう目印になるものを掲示したり、なじみのある動線を変えない様家具等の配置に工夫を行い、自立した時間の確保に努めている		